

地下水バイパスの検討状況

平成24年6月25日

東京電力株式会社

2. 設備概要



3. 運用方法

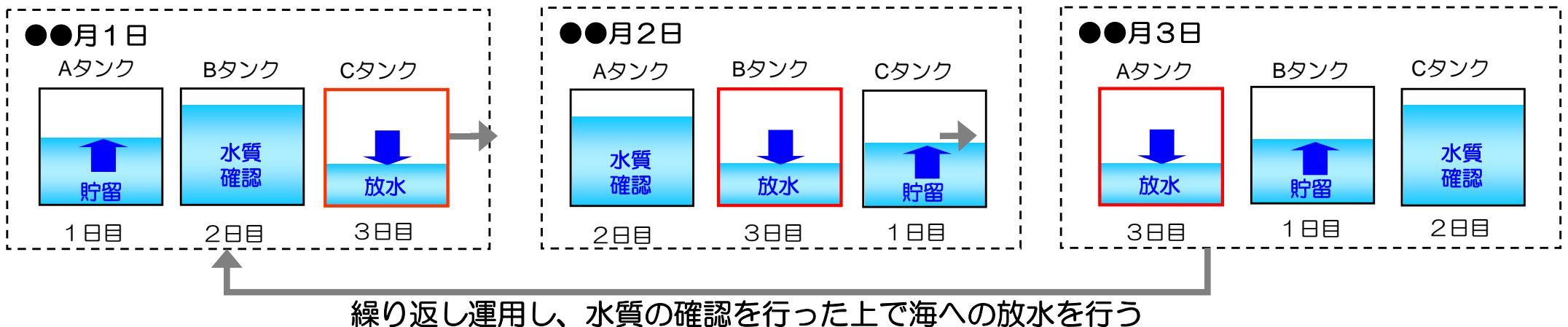
■基本方針

- ・汲み上げた地下水は、一旦タンクに貯留し、水質の確認を行った上で海に放水する。
- ・水質の許容値については、放射性セシウム濃度に関する各種規制値、公共用水等の水質及び分析精度、日々水質確認が可能な濃度限界を考慮して検討し、関係者の合意を得るものとする。

■運用サイクル

	1日目	2日目	3日目
①地下水貯留	貯留停止		放水完了後、貯留開始
②水質確認	採水	水質分析	
③放水			放水

・ 3セット×3日サイクルで運用し、水質の確認を行った上で海への放水を行う。



<参考>地下水の水質の現況

- Cs-134,137は、検出限界値1Bq/L程度の分析では検出されていない
- 現在、検出限界値を下げて分析実施中

分析核種： γ 核種全て、全 α ・全 β 核種、トリチウム

分析結果： γ 核種全て、全 α ・全 β 核種は検出限界値以下

※検出限界値：全 α =3.0Bq/L、全 β =6.7Bq/L

Cs-134,137については下表参照



Cs-134,137の分析結果

(上段：H24.2.21～22採水、下段：H24.5.24採水)

(Bq/L)

孔名		対象深度 (O.P.m)	Cs-134	Cs-137
A地点	①	12.9 ~ 9.3	0.85以下 0.76以下	1.0以下 0.87以下
	②	26.0 ~ 14.5	0.92以下 0.87以下	1.0以下 0.91以下
B地点	①	14.7 ~ 13.9	0.86以下 0.84以下	1.0以下 0.95以下
	②	25.7 ~ 18.1	0.90以下 1.2以下	1.1以下 0.91以下
C地点	①	13.4 ~ 9.5	0.89以下 0.71以下	0.96以下 0.99以下
	②	26.3 ~ 18.4	0.80以下 0.94以下	0.96以下 1.0以下

トリチウムの検出について

- A,C地点では未検出であり、B地点で低濃度（告示濃度の数百分の一程度）のトリチウムが検出された
- 一部の孔のみ検出されていること、低濃度であること、建屋より標高が高い場所の地下水であること、他の核種が検出されていないことから、汚染水が混入したものではないと考えている
- 発電所事故に伴い水蒸気として放出されたトリチウムが地表に降下し、浸透したものと推定されるが、引き続き監視を継続していく

(上段：H24.2.21～22採水、下段：H24.5.24採水) (Bq/L)

孔名		対象深度 (O.P.m)	トリチウム
B地点	①	14.7 ~ 13.9	12 61
	②	25.7 ~ 18.1	70 180

(トリチウムの告示濃度：60,000Bq/L)

河川水 (環境省データ)	前田川 (双葉町、浪江町)	3月4日	1 Bq/L
	請戸川 (浪江町)	3月4日	1 Bq/L以下
	熊川 (大熊町)	3月4日	1 Bq/L以下
	富岡川 (富岡町)	3月4日	1 Bq/L以下
	木戸川 (川内村、楡葉町)	3月4日	1 Bq/L以下
海水 (当社測定データ)	福島第二 (北放水口)	5月平均	0.49Bq/L (Cs-137)
	岩沢海岸	5月平均	0.43Bq/L (Cs-137)